

## ○今年も厳しい国会の攻防

予算が衆議院を通過して、議論が参議院に移っています。次の国会での焦点は、予算関連法案、特に赤字国債の発行を可能にする特例公債法案と、「社会保障と税の一体改革」法案に焦点が移ってきます。赤字国債の発行特例法案は、去年は、国会の最後まで野党の賛成が得られず、菅総理が首を差し出して決着しました。引き伸ばされれば、政府は秋ごろに資金繰りが出来なくなって、予算の歳出を止めざるを得ない状況に追い込まれます。一方の、「社会保障と税の一体改革」は、消費税増税の是非がかかっています。自民党は、まず解散して、その結果に基づいて話し合いをしようと言います。私たちは、解散しても今の状況では国会が与野党ねじれることは同じ。まず、話し合いをして決着をさせよう。その上で、国民の信を問うべきだと言っています。決着は、国会の終わりのころまで引きずってしまいそうです。

社会保障と税の一体改革は、一般には年金や医療の改革を中心に議論がなされますが、もう一つ、「子ども・子育て」の分野でも消費税を財源にした改革をしたいのです。私の担当のもとに新法を出します。保育所に入れない待機児童を解消するために施設の増設をする。他に、企業内保育、身近な預かり保育やベビーシッターなどの多様な仕組みの育成。「総合子ども園」の創設で、幼稚園の教育と保育所を合体させて質の向上をはかると同時に、財源を内閣府に一体化してこれまでの縦割りの弊害を解消する。この財源に消費税の一部を使わせてほしいのです。

さらに、私が所管する重要法案では、「新型インフルエンザ」に対応するための緊急法制があります。日本で流行すれば、最悪64万人以上が死ぬ可能性があると言われているH5N1型の鳥インフルエンザへの対応です。普通のインフルエンザと違って、病原性が高いのです。東南アジアや中国では、鳥から感染して、すでに死亡者が出ていますが、これが、人から人に感染する変異種に変わった時、WHOから世界中に警告が発せられます。日本国内に侵入させない手立て。ワクチンの準備と投与。一旦、国内で流行が始まれば、政府機能、企業活動、交通、運輸等々、社会のあらゆる分野での行動抑制に関連した社会的な混乱に、

あらかじめ適応ルールを作る必要があります。社会全体でその準備を進めるための法律を提出します。

## ○鈴鹿にミャンマー(ビルマ)の難民

ミャンマーの民主化がどこまで進むのかはっきり見極める前に、すでに先行して進出している中国に負けてなるまいと、各国が経済権益の獲得を目指して動き始めています。日本では、ミャンマー(ビルマ)と言えば、軍事政権に対して戦うアウンサン・スーチー女史を中心とした民主化運動と言う局面でのみ捉えられてきました。しかし、実際には、もう一つの局面があります。山間の周辺地域に住む、数多くの少数民族との和解を進めて、平和のうちに国家を統一することです。軍事政権との確執は20年以上にもおよび、その間の軍事衝突が多くの難民を生み出してタイとの国境周辺には、いくつもの難民キャンプが散在しています。日本では、2年前から、こうした難民キャンプから数組の家族を受け入れる事業(難民の第三国定住)を始めました。第一陣で受け入れたカレン族5家族のうちの3家族が鈴鹿市のしいたけ農園で新しい人生にチャレンジしています。農園主の夫妻はじめ、周辺地域や学校、鈴鹿市が協力し合って受け入れのための環境を整えてもらっています。これまでとはまったく違った環境の中で仕事と子育てをしていくわけですから、本人たちにとっては、不安、感動、涙、喜び、いろいろな気持ちの浮き沈みの中で頑張っているのです。一方で、周辺の皆さんが親身になってそれぞれの家族の面倒をみて、一緒に悩み、心配している姿には、心から敬服しています。そこから新しい人間ドラマが生まれています。

## ○OSPの人気上昇中

大臣には、SPの警護が常時二人つきます。東京を離れて視察などに出かける時は、その地域の県警が警備をしてくれます。私の警護をしてくれるSPは射撃の名手だそうです。テレビや映画で、SPの皆さんの人気はたいしたものです。東京駅などを一緒に歩いていると、人々の目は、私を通り越してSPに集まります。なんとなく、私がSPを警護しているような気分になったりして。日本の治安は、ありがたいと思っています。